小學唱歌集

第三編

文部省音樂取調掛

編纂

唱歌集

第三編

小學校師範學校中學校教科用書

唱歌集第三編

目次

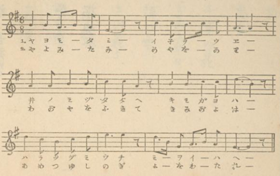
やよ御民
春の夜
なふみ風
あふげバ尊し
雨し
寧楽の都
才女
母のおもひ

めぐれる車
墳墓
秋の夕暮
古戰場
秋艸
富士筑波
園生の梅
橘
四季の月
白蓮白菊
學び
小枝
舩子
鷹狩
小舩
誠ハ人の道
千里の道
春の野
瑞穗
樂しわれら

菊
忠臣
千草の花
きのふ今日
頭の雪
さけ花よ
高嶺
四の時
花月
治る御代

從へ吾君を
ふね
心は王
招魂祭

第五十

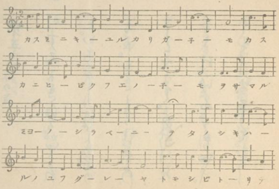


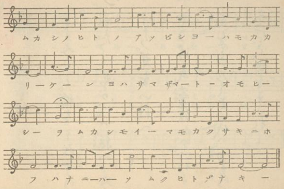
第五十 やよ御民

一 やよみたみ。稲をうゑ井の水たゝへ。君が代ハ。腹つゞみうち御をいはへ。

二 やよ御民。營かまへ。わが家をふきて。君の代ハ。雨露しのぎ。世をわたれ。

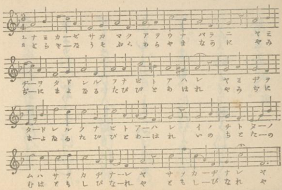
第五十一


カスミニキーユルカリガー子ーモカス
カニヒーピクフエノー子ーモヲサマル
ミヨーノーシラベーニーテタノシキハー
ルノユフグーレーヤトキシビトーリテ


ムカシノヒトノアソビシヨーハモカカ
リーケーンヨハサマザマートーオモヒー
シーヲムカシモイーマモカクサキニホ
フハナニーハーツムクヒトゾナキー

第五十一　春の夜

一　かすみにきゆる。かねのね
も。かすかにひゞく。笛（ふえ）の
音も。ふけまさる夜半乃。
しらべにて。あはれしれ
もる訛。ゆめごゝちや。
ともし火みりて。むかしの
のひかり。あそびし
花あれ。まつまけん。
世をさまし。とおもひ
と。もゝのしれ　めまゐを。
かくはれに　ほかり。
まちにを　焚らむく。
人ぞなき。

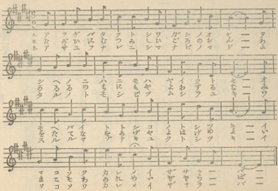


第五十二 なみ風

一 なみかぜさかまくあらうなば
らに。闇路（やみぢ）をたどれる。
ふな人あはれ。やみ路（ぢ）を
たどれる。船人（ふなびと）あはれ。命（いのち）と
たのむは。棹（さを）かぢなれや〱

二 虎（とら）さへうそぶく荒山中（あらやまなか）に。
やみぢにまよへる。たび人
あはれ。やみぢにまよへる。
旅（たび）人あはれ。いのちとたのむは。
ともし火なれや〱

第五十三



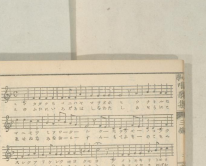
第五十三 あふげば尊し（あふげばたふとし）

一
あふげばたふとし。わが師の恩（おん）。
教（をしへ）の庭（には）にも。はやいくとせ。
おもへばいと疾（と）し。このとし月。
今こそわかれめ。いざさらば。

二
互（たがひ）にむつみし。日ごろの恩。
わかるゝ後にも。やよわするな。
身をたて名をあげ。やよはげめよ。
いまこそわかれめ。いざさらば。

三
朝ゆふなれにし。まなびの窓（まど）。
ほたるのともし火。つむ白雪（しらゆき）。
わするゝまぞなき。ゆくとし月。
今こそわかれめ。いざさらば。

第五十四

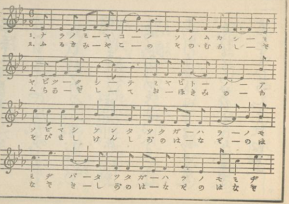


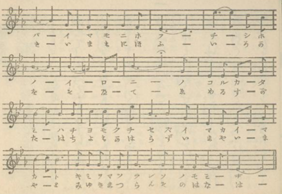
第五十四 雲

一 瞬間（またゝくひま）にハ。やまをおほひ。
うちみるひまにも海（うみ）をわたる。
雲てらすものこそ。くすしくありけれ。
くもよくもよ。雨とも霧（きり）とも。みるまに
變（かは）りて。あやしく奇（くし）きハ。くもよくもよ。

二 ゆふ日にいろどる橋（はし）をわたし。
みそらに都せぬ路をわたす。
雲てらすものこそ奇（くす）しくありけれ。
雲よ雲よ。なきかとおもへバ。大空（おほぞら）を
おほひて。あやしく奇（くし）きハ。くもよくもよ。

第五十五

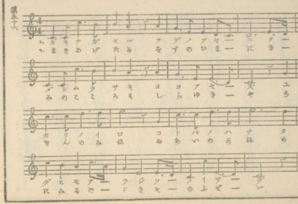

1.ナラノミーヤコーノ ソノムカシーヲ
2.ふるきみーやこーの そのむかしーを
ヤビツークシーテ ミヤビトーノーア
むらあーぎしーて おーほきみのーあ
ソビマシケンタツクガーハラーノモ
そびましけんしおのはーなぞーのは
ミヂパータツタガーハラノモミヂ
なできーしおのはーなぞのはなき


バーイマモニホフーチーシホ
きーいまもにほふーいーろの
ノーイーローニーノコルカータ
をーそーみーてーゐめるすーの
ミーハチヨモクチセズイマカイーマ
たーはちよもあはらずいまやいーま
カートキミツマツランソノモミーヂー
やーまみゆきまつらんそのはなーはー

第五十五 寧楽（なら）の都（みやこ）

一 ならはのみやこの。そのむかし。
みやびつくしゝ。宮（みや）びとの。
遊（あそ）びましけん。龍田川原（たつたがはら）の紅葉（もみぢば）。
あつくぶかりしのさゝもちべ。今もにほふ。
ちりしその色は。のこるかたみ。
み代もくちせぬ。今もかはらじ。
まともまつらん。それ紅葉（もみぢば）。

二 ふるきみやこの。そのむかし。
梅ばしく。おほきみの。
あそびましけん。滋賀（しが）の
花園（はなぞの）。をれしさかれ。しがのは
ぞれ。花さかれ。今をにほふ。
色香（いろか）をそへて。ゑめる姿（すがた）は。
ちらるもかつゝれ。今やゆまめと。
行幸（みゆき）まつらん。それ花をぞ。



第五十六 才女

一 かきながせる。筆(ふで)乃
あやに。そめしむらさき。
世ゝあせず。ゆかりのいろ。
ことばのはな。たぐひも
あらじ。そのいさを。

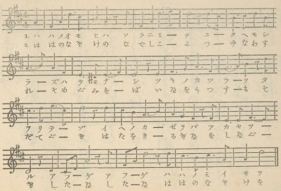
二 まきあげたる。小簾(をす)乃
ひまもりし。君のこゝろを。
しら雪や。爐(ろ)山(さん)の峯(みね)。
遺(ゐ)愛(あい)のかね。めにみるぞきれ。
それ風(ふ)情(ぜい)。

第五十七 母のおもひ

一 はゝのおもひは。空にみち。
ゆくへもしらず。果（はて）もなし。
つきの桂（かつら）を。手をりてぞ。
家の風をば。ふかせつる。
あふげ〳〵。母のいさをを。

二 母のなさけの。撫子（なでしこ）よ。露
なわすれそ。めぐみをば。
家をうつすも。そだて草（ぐさ）。
機（はた）をきるさへ。教（をし）へぐさ。
したへ〳〵。母のなさけを。

第五十七



第五十八　めぐれる車

一　めぐれる車。ちからそ水。わすれては。いとへぬ。やむ間なし。

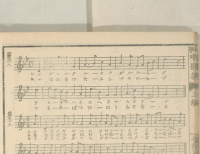
二　歳月（としつき）をはこぶ。めぐるの水積（つも）る。はるさむ。満ちをとる。

第五十九　墳墓（ふんぼ）

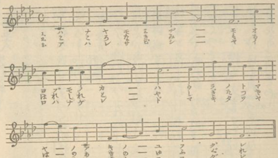
一　わふく風に。おくれみし事。おもへばあはれ。わがなき父の。奥津城（おくつき）どころ。

二　浅茅（あさぢ）がしげみ。むし乃ねかれて。おもへばあはれ。わがなき母の。おくつきどころ。

三　苔（こけ）むす塚（つか）に。文字（もじ）さへ消（き）えし。おもへばあはれ。いづれのひとの。ちるもおとなきや。



第六十



第六十 秋の夕暮（ゆふぐれ）

一 花や紅葉（もみぢ）も。およぶものかは。
浦（うら）のとまやの。秋のゆふぐれ。

二 こゝろなき身も。あはれしれとや。
鴫（しぎ）たつ澤（さは）のあきの夕暮。

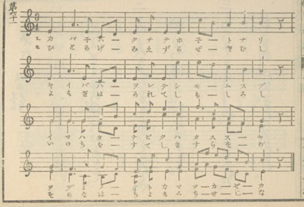
三 あはれさびしや。いろはなけれど。
槙（まき）たつ山の。あきの夕ぐれ。

第六十二 古戰場(こせんぢやう)

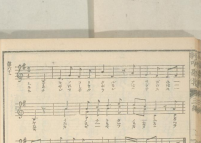
一 屍(かばね)ハ朽(くち)て。骨(ほね)となり。刃(やいば)ハをれて。
しもむすぶ。今ハたな靡(なび)く。旗薄(はたすゝき)。
訪(とふ)ものとてハまつ風の。

二 人影(ひとかげ)みえず。風寒(さむ)し。蓬(よもぎ)ハかれて。
霜(しも)しろし。命(いのち)を捨(すて)し。益荒雄(ますらを)の。
その名ハ千代まで。朽(くち)せじな。

第六十二



第六十二



第六十二 秋艸（あきくさ）

一 さきのこりたるあさがほや。
命（いのち）とたのむ。つゆもあさぢの。
あさがほや。

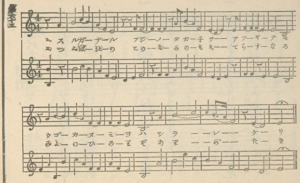
二 あや錦（にしき）おる。はぎのはな。
たまをいろどる。袖ぞこぼるゝ。
萩（はぎ）のはなし。

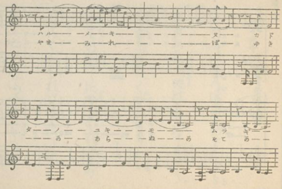
三 たれまちくらし。はなすゝき。
風をふくかたに。袖でみだるゝ。
はなすゝき。

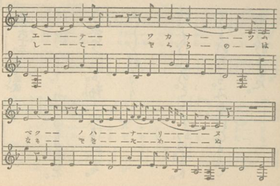
第六十三 富士筑波（ふじつくば）

一 駿河（するが）なる。ふじの高嶺（たかね）を。あふぎても。動（うご）かぬ御代を。しられけり。

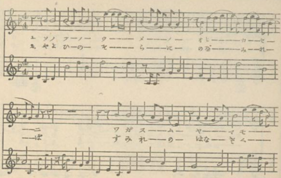
二 つくばねの。このもかの面（も）に。てらしける。み代のひかりぞ。ありがたき。




ハル——　—メ——キ——　—　—　—　————ヌ——　カ　ド
やま——　—み——れ——　—　—　—　————ば——　ゆ　き
タ——ノ——　—　ユキ——　——モ————　ム　ラ　ギ——
———　の——　—　あら——　—　—ぬ———あ　そ　て　あ——


エ—　——テ——　ワ　カ　ナ—　——ツ　ム
し—　——て——　を　ち　ら—　の——　は
ベ　ク——　ノ　ハ——　—ナ———リ———　——ヌ
な　も——　を　さ——　—え———め———　——ぬ

第六十四



第六十四　閨中の梅

一
そのふの梅の。追風に。わがすむ山も。
きのふまで。門田は雪の。むら消え。
若菜つむべく。野ハなりぬ。

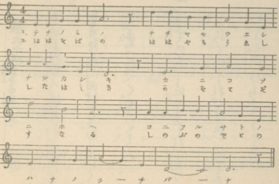
二
弥生のそらに。野辺見れバ。菫の
花咲く。山見れバ。雪のこりぬ。そま
かくし桜は。ゆめさきそめぬ。

第六十五 橘（たちばな）

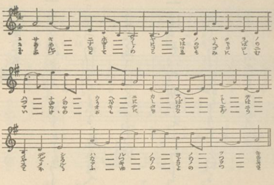
一 ちゝの実の。父やもうゑし。
なつかしき。かにこそにほへ。
よにふるのさとの。はなの橘（たちばな）。

二 はゝそバの。母やもうゑし。
したはしき。かをりぞすなる。
しのぶの里の。はなの橘。

第六十五



第六十六



第六十六　四季（しき）の月

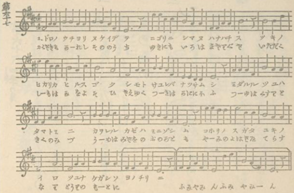
一　さきにほふ。やまのさくらの。
はなのうへに。霞（かす）みていでし。
はるのよの月。

二　雨（あめ）すぎし。庭（には）のくさばの。
つゆのうへに。しばしはやどる。
夏の夜の月。

三　こゝろ　ひとの。こゝろくまなし。
まつをおもひて。高嶺（たかね）はすめる。
あきのよの月。

四　千鳥（ちどり）なき。聲（こゑ）も身（み）にしむ。
いけの面（おも）に。さえかへる。
冬（ふゆ）のよの月。

第六十七

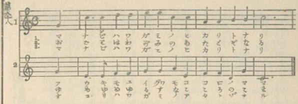


第六十七　白蓮白菊（びやくれんはくきく）

一　泥(どろ)のうちより。ぬけいでゝ。濁(にご)りにしまぬ。
はな蓮(はちす)。月(つき)のひかりか。ひるすごく。
霜(しも)とさゆれバ。夏(なつ)さむし。乱(みだ)るゝ露(つゆ)ハ。
たまとみえ。かをれる風(かぜ)ハ。身(み)にぞしむ。
氷(こほり)のすがた。雪(ゆき)のいろ。つゆなけがしそ。
世(よ)のちりに。

一　草木(くさき)もかれし。園(その)の中(うち)。雪(ゆき)にも色(いろ)ハ。
まさりぐさ。いたゞく霜(しも)ハ。身(み)をよそひ。
きえゆく月(つき)ハ。たまにかふ。露(つゆ)ハくすりと。
きくの水(みづ)。汲(くむ)ハみちとせの。おきなども。
闇(やみ)の夜(よ)さへ。てらすなり。東籬(とうり)の
もとに。住(すみ)やらん。

第六十八



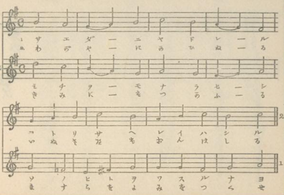
第六十八　學び

一　まなびハわが身の光りとなり。富貴も栄誉もこゝろのまゝ。

二　驕りハわが身の仇とぞなる。努〱ゆるすなこゝろの綱。

三　學びハ我が身のひかりなり。怠りも己が身の仇とぞなる。

第六十九

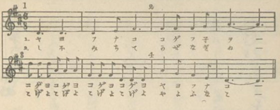


第六十九　小枝（さえだ）

一　さえだにやどれる。小（こ）鳥（とり）さへ。
禮（れい）はしる。道をならひし。
その人を。わするなよ。

二　吾家（わがや）にかひぬる。犬（いぬ）さへも。
恩（おん）はしる。君にもつかふる。
大丈夫（ますらを）よ。身をつくせ。

第七十

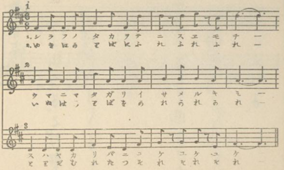


第七十　船子（ふなこ）

一　やよふな子。こげ船を。
こげ〳〵。〳〵〳〵。
やよふな子。

二　しほみちて風なぎぬ。
こげよ〳〵。〳〵〳〵。
やよふな子。

第七十一

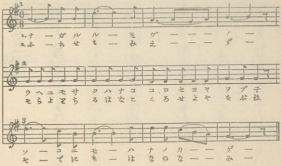


第七十一 鷹狩（たかがり）

一 しらふの鷹（たか）を。手にすゑもち。
馬（うま）にまたがり。いさめる君。
すハや狩場（かりば）に。ゆけ〱〱。

二 雪（ゆき）ハ狩場に。ふれ〱〱。
犬（いぬ）ハかり場を。かけ〱〱。
とりぞむれたつ。それ〱〱。

第七十二



第七十二 小舟（をぶね）

一
流（なが）るゝ水（みづ）のうへにもさく花。
こゝろせよや。をぶね。
底（そこ）にもはなのかげ。

二
淵瀬（ふちせ）をみえず。そらより散花（ちるはな）。
こゝろせよや。をぶね。
袖（そで）にも花（はな）の波（なみ）。

第七十三　誠（まこと）ハ人の道

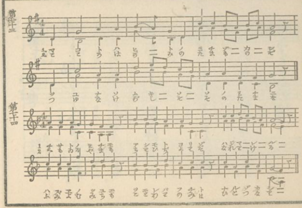
一　まことハ人の。道ぞかし。つゆな
そむきそ。そのみちを。

二　こゝろハ神の。たまものぞ。露（つゆ）な
けがしそ。そのたまを。

第七十四　千里（ちさと）のみち

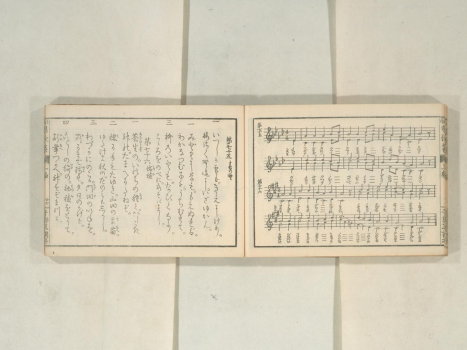
一　千里の道も。足（あし）もとよりぞ。始（はじ）まれる。
木末（こずゑ）の露も。積（つも）れバ淵（ふち）となるぞかし。

二　高かる山も。塵（ちり）ひぢよりぞ。なれりける。
書（ふみ）よむ業（わざ）も。ことわりハみな。ひとつなり。



第七十五

第七十六



第七十五　春の野

二　いつしか雪も。きえてけり。
梅咲く野辺に。いざゆかん。

一　みやまうぐひす。そのこゑを。
まちえぬるかな。
わかなつむ子を。うちむれて。

三　柳乃いとを。なびくなり。
こゝろをのべに。あそばまし。

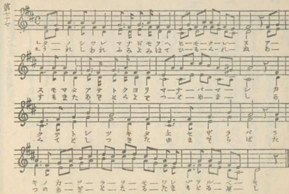
第七十六　瑞穂（みづほ）

一　蒼生（あをひとぐさ）の。いのちの綱（つな）と。かしこき
神代。たまへるいねぞ。

二　採（と）る手をたゆき。山田の早苗（さなへ）。
ゆふけは秋の。たのもしかりし。

三　わづかにのこる。門田（かどた）のいねを。
刈（か）るまで稲（いね）を。夕日のかげた。

四　ことしの稲（いね）の。初穂（はつほ）をとりて。
新嘗（にひなへ）つくへ。神をぞまつる。

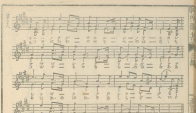


第七十七 楽（たの）しわれ

一 たのしわれ。まなびもをへ。日もくれぬ。あすもまた。あさとくより。学（まな）ばましかば。かくて年月（としつき）。たえせざらば。月の桂（かつら）をもわれぞをるべき。

二 うれしわれ。ふみよみはてて。ひもくれぬ。あすもまた。あさとくより。勉（つと）めましかば。かくてとし月。撓（たゆ）まざらば。龍（たつ）の腮（あぎと）なる。玉をとるべし。

第七十八

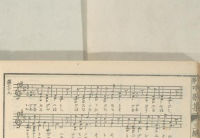


第七十八 菊

一 庭の千草も。むしのねも。
かれてさびしくなりにけり。
あゝしらぎく。嗚呼白菊。
ひとりおくれて。さきにけり。

二 露にたわむや。菊の花。
しもにおごるや。きくの花。
あゝあはれ〳〵。あゝ白菊。
人のみさをも。かくてこそ。

第七十九

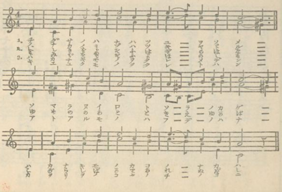


第七十九 忠臣

一
嗚呼香ぐはし。楠の二本も絶せず。
みなと川。浪の音さへかにぞしむ
なる。ちゝありきその功績忠臣
嗚呼忠臣。兄弟の人忠臣あゝ
忠臣。たぐひなや。

二
嗚呼かぐはし。なの二もとおくらるし。
芳野やま。ちりても世にこそ残れ。
それうしもぞ。そのまことや。忠臣
あゝ忠臣。兄弟のひと忠臣嗚呼
忠臣。たぐひなや。

第八十



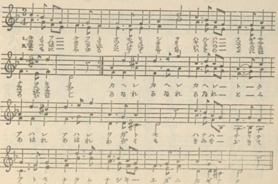
第八十　千草の花

一　ちくさの花ハ。露をそめ。野中の
水ハ。月やどる。そまらぬいろと。宿の
かげ。そくのちるものかよの中ハ。

二　錦（にしき）をよそふ。萩の花。みだれさ
さそふ。嵐ハの露（しも）夢（ゆめ）野のわらく。
消（きえ）ゆくのたか。木枯（こがらし）なりて。おきぬべし。

三　はかなきものを。憐（あはれ）めでんきえゆく
身托を。たのまとけん称（あく）ある身の八葉。
のり心。かをりを。のこさば。のちに。

第八十一

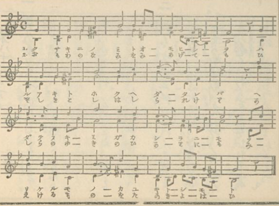


第八十一 きのふけふ

一 きのふけふと。思（おも）ひしを。春も過（すぎ）て。
夏（なつ）来ぬ。雁（かり）かへり。燕（つばめ）きぬ。君は
ゆきてかへらずや。かへれ〱〱とく。
あかなく。わが友（とも）。花（はな）は散（ち）りて。あと
もなく。空（むな）しき枝（えだ）に。風ふく。

二 松（まつ）ぞ常磐（ときは）。竹（たけ）は千代。人の世のみ。
つねなし。雪（ゆき）にたゆる菊（きく）さへ。人の
世には。かひなし。かへれ〱〱とく。
あかなく。わが友。君をおきて。友
もなし。たちつゝねつゝ。わがまつ。

第八十二

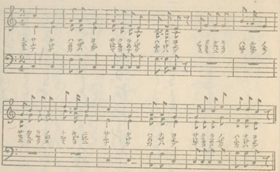


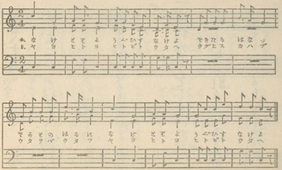
第八十二　頭（かしら）の雪

一　草木（くさき）にのみと。おもひしを。春（はる）秋（あき）
とほく。へだゝれば。隔（へだ）てぬ君が。
頭（かしら）にも。つもりけるものか。雪と霜と。

二　面（おも）わのなみを。見あげても。久しき
としは。しられけり。頭（かしら）の雪の光（ひかり）
にも。みえけるものを。たふとき齢（よはひ）。

第六十三




4. な け さ て よ う ぐ ひ す な け よ さ き た る は な ゾ
5. ヤ ヨ ヒ ト ヨ ヒ ト ビ ト ウ タ ヘ ウ グ ヒ ス カ ハ ヅ
さ あ そ の は る に な け さ て よ う ぐ ひ す な け よ
ウ タ ヲ バ ウ タ フ ヤ ヨ ヒ ト ヨ ヒ ト ビ ト ウ タ ヘ

第八十三　はなさかり

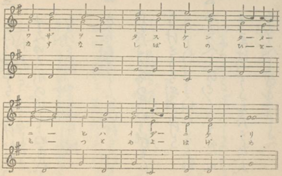
一　はなさかりはるはくしのそよ。
のどけき春。はなの時よ。
はなのかをる。桜みだるる。

二　ふけ〻のぜる。春風ふけよ。
きえくるふをちらしはぬるほどに。
ふけ〻ら。るのぞする。

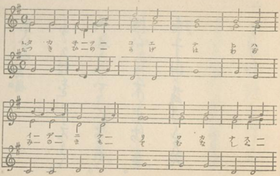
三　なけ蛙（かはづ）。やよなけかはつ。
すみゆく水の。にごらぬ御代よ。
なけや小川。やよなけ蛙（かはづ）。

四　なく鳥（とり）よ。うぐひすになける。
はなさくそのの。はかりみまくに。
なけそらに鶯（うぐひす）なけよ。

五　やる人よ。ひとしくうたへ。
言葉はつゞるをくらうたふ。
やる人よ。ひとしくうたへ。


ワ ザ ヲ ー タ ス ケ ン ター メー
カ す な ー し ば し の ひー ぎー
ニ ー ト ハ イ デー ニ ケ ・リ
も ー つ ど や よー は げ め

第八十四

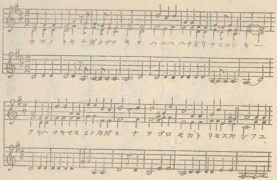

1.タ カ 子ーヲ ニ コ エ テ ト ハ
2.つ き ひーの ー の げ は わ お
イー デー ニ ケー リ ワ カ ナ ス ニ
みー のー き もー そ む な し ぐ ー

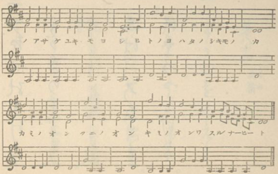
第八十四 高嶺（たかね）

一 くものねをこえゆく。
日影いでにけり。
わがのなすわざを。
たすけ舞しらん
ろし。日をいざなは
ざり。

二 つれ日孔のげを。
この身のまもり。
空（むな）しくなすれ。
志ばしのひまを。
はやめるなげきん。

第八十五


ヨツノ トキ ナガメヅツ キ ヌ ハルハ ハナオリ ナスニシ キ ー
アキハ ツキマス ミノカガミ ナ ツ ゴロ モカト リモスズ シフユ

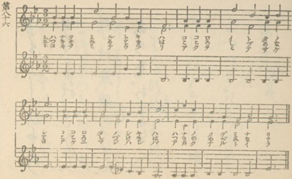

ノ アサ ケユキ モ ヨ シ ヒ トノヨ ハタノ シキモノ カ
カミノ オ ン クニノ オ ン キミノ オンワ スルナーヒート

第八十五 四の時

一 よつのとき。ながめぞ
たえぬ。春をは花。
おもちは緑。あきは
月。ますらをの雪。
なほごころも。かゝわえ
すゞし。冬代あはな。

雪をよし。ひゆかろ
世ゝ。あれしきのう。
親の恩。國乃おん。
君の恩。わするな人。

第八十六



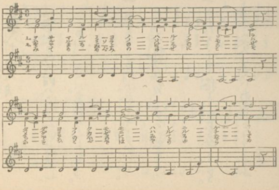
第八十六 花月（くわげつ）

一 花を見る時ハ。こゝろいとたのし。
かくたのしきハ花のめぐみとなり。

二 月をみる時ハ。心すみわたり。
かゝる静（しづ）けさハ。月の恵（めぐ）みなり。

三 よきをとりて移（うつ）り。悪（あく）をみてさくる。
朱（あけ）に交（まじ）はれバ。あかくなるといふ。

第八十七

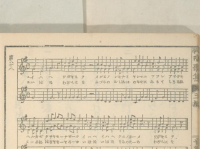


第八十七　治る御代

一
治る御代の春の空。たゞよふ霞も。
はるかに望むもろこしのその
雲ゐめぐる代風にたなびくなり。

二
治るみち風その風ち里の外ま。
そてろちう。みてるめぐみの風に
こそ青人草なびきゆくらん。

第八十八

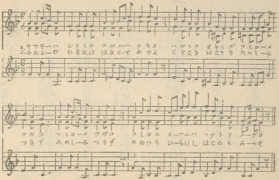


第八十八　祝(いは)へ吾君(わがきみ)を

一　祝へ吾君を。恵(めぐみ)の重波(しきなみ)。やしまに
あふれ。普(あまね)き春風。草木もなびく。
いはへ〳〵。國(くに)の為(ため)。わが君を。

二　祝へ吾國を。瑞穂(みづほ)のおしゑは。のなせ
にみちて。しろかね黄金(こがね)花(はな)咲(さき)栄(さか)ゆ。
いはへ〳〵。君の為。わが國を。

第八十九

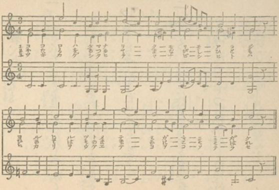


第八十九　花鳥（はなとり）

一　山ぎはゝしらみて。雀（すゞめ）はなきぬ。はや疾（と）く
おきいで。書（ふみ）よめわが子。書（ふみ）よめ吾子（わがこ）。
ふみよむひまには。花とりめでよ。

二　書（ふみ）よむひまには。花とりめでよ。鳥（とり）なき
花（はな）咲（さき）。たのしみつきず。楽（たの）しみつきず。
天地（あめつち）ひらけし。始（はじめ）もかくぞ。

第九十



第九十 心ハ玉

一 こゝろハ玉なり。曇りもあらじ。
よる晝勉めて。みがけよ磨け。

二 螢をあつめて。まなびし人も。
ひかりハ其まゝ身にこそ添。

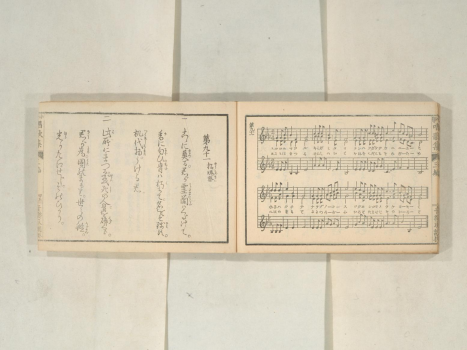
三 月雪ならひて。学びし人も。
ひかりハ殘りきえて世をこそ照らせ。

第九十一 招魂祭

一 こゝに奠る。君が霊蘭ハくだけて。香に匂ひ骨ハ朽ちて。名をぞ残す。机代物。うけよ君。

二 此所にまつる。戦死の人骨を砕くも。君が為。國のまもりて。世々の鑑。光りたへせじ。そのひかり。

第九十一



明治十七年三月廿九日印刷發行
同　十八年五月再版　（定價金貳拾貳錢）

東京音樂學校藏版

版權所有

編纂者　文部省
發行者　高等師範學校附屬音樂學校
印刷兼發賣者　（東京市京橋區銀座二丁目廿三番地）大日本圖書株式會社

發賣元　（東京市京橋區銀座二丁目廿三番地）大日本圖書株式會社
（大阪市東區博勞町四丁目十七番屋敷）仝　支社

販賣所　（東京市京橋區弓川町）（音樂々器專賣所）共益商社
（大坂市心齋橋通北久寶寺町角）仝　三木佐助

東京音樂學校著作
箏曲集
全貳冊　定價　第一冊金九拾錢　第二冊金壹圓　郵稅　各金六錢

本書は箏曲中の高雅純正なるものにつき東京音樂學校邦樂調查係に於て斯道の大家諸先生の査定せられたるものなれば記譜の確實にして模範的なるは勿論彈奏上の方法に付いても精細に說明を附したるを以て西洋音譜の心得ある人は容易に獨學獨習して箏曲の奥義を窺ふことを得べし

文部省音樂取調掛編纂
小學唱歌集
全三冊　定價　初編金拾貳錢　二編金拾錢　三編金廿貳錢　郵稅　各金貳錢

幼稚園唱歌集
全一冊　定價　金拾貳錢　郵稅　金貳錢

東京音樂學校藏版
（祝日大祭日）唱歌重音譜
全一冊　定價　金貳拾五錢　郵稅　金四錢

中等唱歌集
全一冊　定價　金參拾錢　郵稅　金四錢

（小學唱歌集用）オルガンピヤノ樂譜
全一冊　定價　金五拾錢　郵稅　金八錢

發行所　（東京京橋區銀座壹丁目）（郵便振替東京二一九番）大日本圖書株式會社